



WORKSHOP

はしハシ、かけカケ

概要

OUTLINE

担当：情報科学芸術大学院大学(IAMAS)

日時：2016年9月10日(土)

①11:00~12:00

②14:00~15:00

場所：美術館 庭園

スタッフ：情報科学芸術大学院大学(IAMAS) 2人、

美術館 1人、他

参加人数：①15人 ②27人

ワークショップの流れ

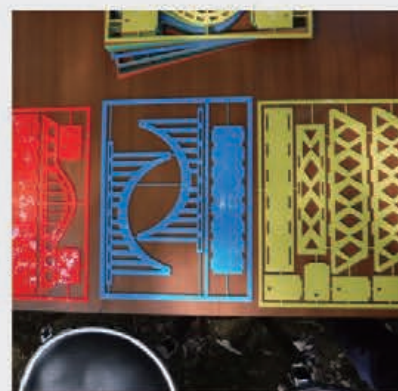
FLOW

- ① レーザーカッターでくりぬかれたアクリル板をパーツごとに切り分け、組み立てる。
- ② 旗に図柄を描き、竿に固定する。
- ③ 川に石を置いて安定させ、自分の作った橋を設置し、旗を立てる。

アクリル板で橋をつくるワークショップ。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)の学生、研究員がインストラクターとなり、参加者は橋を組み立て、庭園の川にかけた。橋は岐阜の川にかかる橋(忠節橋、揖斐長良橋、美恵橋)をモチーフとしてデザインした。また、参加者は旗に好きな図柄を描いた。完成後、組み立てた橋を庭園の川に架け、旗をたてた。

ふらっと訪れた際に開催していたアートまるケツに飛び入り参加。岐阜の橋を子どもたちがつくってつなげるとも素敵なアイデアです。水面の輝きも手伝ってとてもきれいでした☆ (岐阜市・12歳以下男性保護者)

川の流れを利用してアクリルの小さな橋をつける作業が友達の橋をつなげる様子を見て興味深かったです。(岐阜市・12歳以下女性保護者)



橋のデザインで切り抜かれたアクリル板



会場の様子



組み立てた橋を川に設置



川の中の石に橋がかかる様子





EVENT

企画展「フランスの風景 樹をめぐる物語」関連イベント

樹×アートまるケツ「このきなんのき？」

概要

OUTLINE

担当：美術館

日時：2016年9月18日(日) 14:00～15:00

場所：美術館 企画展示室

講師：森林文化アカデミー 柳沢 直准教授

聞き手：美術館 松岡 未紗学芸員

参加費：企画展観覧料

参加人数：45人



実際の葉を手にとり、解説する柳沢准教授

「樹木」というモチーフを通して、フランス近代絵画の変遷を辿る企画展「フランスの風景 樹をめぐる物語」の関連イベント。森林文化アカデミーの柳沢直准教授が絵画の中の樹を見ながら、その生態を語った。参加者はポプラを描いた作品の前で実際のポプラの葉を手にとり、全体の見た目や枝葉のつき方、生えている場所の様子などを視覚と触覚を通して作品を鑑賞した。



EVENT

収穫祭

概要

OUTLINE

担当：美術館

日時：2016年9月25日(日)
10:00～16:00

場所：美術館 庭園、講堂

スタッフ：各参加団体(15団体)、美術館

参加費：無料

参加人数：2,070人

(うち映画鑑賞者数182人)

自主制作映画

INDEPENDENT FILM

場所：美術館

上映時間：①11:00～ ②13:00～ ③15:00～

監督名	作品名
柴田 晃宏	「Nobutaka Shomura」 「月見る夢」
加藤 洋平	「月は無慈悲な夜の女王」
大久保 務	「夜空」
直井 康晃	「逃げる男」
寺島 真希	「Dancado 踊り続ける」

(順不同)

「ながれミながら」最終日のイベント、収穫祭。収穫祭前の会期中、各種団体が美術館庭園を中心に活動した。書道部が本番さながらの練習を行ったり、映画制作チームが美術館の各所を舞台に撮影したりした。当日は庭園ステージで迫力ある演奏やダンスなど熱いパフォーマンスを行い、講堂では制作した映画を上映した。他にも庭園で料理家minokamoが出店した。



プログラム		PROGRAM
時 間	団体名(パフォーマンス)	
10:10～10:30	「音と語りのお話の世界」火風水(語り)	
10:40～11:00	加納西認定こども園(ダンス)	
11:10～11:30	NOSS公認インストラクター 太田日登美(日本舞踊)	
11:40～12:00	岐阜県立岐南工業高等学校 書道部(書道パフォーマンス)	
13:00～13:20	岐阜の森学園+Vio. 濱島秀行+聖徳学園和太鼓(和太鼓パーカッションフェス)	
13:30～13:50	あみこ(コンテンポラリーダンス)	
14:00～14:20	池田町障害福祉サービス事業所 ふれ愛の家(踊り)	
14:30～14:50	MJ TRIBE GIFU(ダンス)、	
15:00～15:20	スタジオDHダンシングハート(ダンス)	
15:30～15:50	ラフター(笑い)ヨガ(健康体操)	



チラシ



映画上映の様子

初めて自主制作映画を見ました。
いろんな表現方法があることが分かり
興味深かったです。 (岐阜市・30代女性)



「音と語りのお話の世界」火風水



加納西認定こども園



NOSS公式インストラクター 太田 日登美



岐阜県立岐南工業高等学校 書道部

老若男女色んな方がいらっしゃることに
驚いた。もっと年配の方が多いかと。自主
制作映画がよかった。 (岐阜市・20代男性)

今回のイベントのことは知人から聞いて
来てみましたが、普段いろいろな活動をして
いる人たちの発表の場があるのは
良いと思います。 (岐阜市・50代女性)



岐阜の森学園+Vio. 濱島秀行



minokamoレストラン



聖徳学園和太鼓



アートまるケット2015-2016を振り返って ～公然の秘密の花園



あみこ



池田町障害福祉サービス事業所 ふれ愛の家



MJ TRIBE GIFU

岐阜でこんなに楽しくてオシャレな美術館イベントがやっていて、岐阜県出身者としてとてもほこらしいです!!

いっしょに来ていた7歳の子どもも楽しんでた。自分が子どものときは美術館はしゃべっても笑ってもいけない「苦痛の施設」でした。今日みたいなイベントたくさんあったら、美術好きの子どもが増えて、更にかっこいい岐阜県になると思います。(一宮市・30代女性)



スタジオDHダンシングハート



ラフター(笑い)ヨガ

美術館の庭園を舞台にした「アートまるケット」を振り返るにあたって、関係する2つの美術用語、即ち、庭園のある美術館ならではの「彫刻庭園」と、近年美術施設の外で開催される際に付される「アートプロジェクト」とを対比してみると、その位置づけが見えてくるように思える。

ときおり耳にする彫刻庭園という言葉は、その言葉自体はわかりやすいのだが、その特徴は十分に理解しがたい。ジェーン・マッカーシーとローリリー・ケイル・エプスタインによる『アメリカの彫刻庭園・公園案内』ⁱの序文を読むと、文字通り「彫刻の展示を目的とした屋外の公園・庭園」とあり、ここでいう彫刻とは、「普通、景観に囲まれた中で、耐久性のある素材でできた、複数の恒久設置作品のこと」を指している。

このことだけを取り出して考えると、彫刻庭園の彫刻には、館内で管理される彫刻以上に、耐久性が要求される。永続的な屋外環境を前提とした所蔵品による常設展示が前提となっているし、景観に対しての配慮もまた(彫刻作家によってであれ、庭園の設計者によってであれ、学芸員によってであれ)必要であろう。従って、景観の中に、はっと驚かされる彫刻が出現したとしても、その彫刻は、景観を侵害しないように設置されるか、いずれ景観になじむように想定されたものだと考えられる。よって、彫刻自体が景観の一部となり、景観が既設の彫刻によって規定されているため、さらなる作品は景観を乱すものとして、新たに出現できないことになる。

景観の公共性と屋外彫刻の問題について

は、しばしば、ミュンスター彫刻プロジェクトの事例が引き合いに出される。10年に一度、夏の間だけ開催されるそのアートイベントも、今年2017年で第5回目を迎える。1970年代、それが始まる以前、ミュンスター市がジョージ・リッキー寄贈によるモビール作品の屋外設置を拒否したり、ミュンスター大学学長がヘンリー・ムーアの贈呈作品の構内設置を拒んだりしたことから、屋外彫刻の設営と公共性の問題が議論されるようになった。そのため、1977年に始まったミュンスター彫刻プロジェクトでは、芸術家が事前に町に滞在し、町や住民のことをよく調査した上で作品と設置場所のアイデアを出し、滞在制作して、作品を設置するという方法を取り入れることとなった。「プロジェクト」の名を冠した最も早い例のひとつであると同時に、屋外彫刻と、アートプロジェクトとの親和性の高さを伺い知ることのできる好例である。

しかし、公立美術館の庭園で恒久設置される作品を収集する際、収集委員会や議会を介すなど公平性が求められる一方で、その設置時に、景観について地域住民と話し合われることはない。塀の内側の敷地に展示・保管されるだけである。

一方、アートプロジェクトの特徴は、作品そのものより制作のプロセスを重視することにある。作品は、アーティストという作り手によるものと考えられてきたが、アートプロジェクトは、作り手を超えて様々な人々が携わることで成立する。日本では、しばしば言われるように、1990年代以降、プロジェクトとして制作のプロセスを重視す



るようになり、その結果、社会との関係性が明確になり、作品が設置・展開される場所に脚光が当たるようになった。それにより美術館から外に出て社会的な文脈でアートを捉え、アートを媒介に地域を活性化させようとする取り組みが増えていった。

確かに、アートまるケットは、こういったアートプロジェクトのムーブメントを取り入れている。アーティスト日比野克彦は、3つの県立のアカデミーおよび1つの大学院大学に依頼し、参加する先生たちとアイデアを出し合いながら個々のプログラムとそれらを行うアートまるケットの全体像を形作った。芸術系の大学組織は、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)だけで、他は、国際園芸アカデミー、国際たくみアカデミー、森林文化アカデミーであり、園芸と樹木と木造建築のエキスパートからアイデアの提供を受けながら、イメージを膨らませていく方法をとっている。

しかし、アートまるケットは、日本で90年代以降に充実してきたアートプロジェクトと同種ではない。基本的な参加者は、何らかの専門の作り手であり、また、各校の学生・卒業生たちと関係者によるものである。むしろ各校で既に、地域の一般の人たちと活動するカリキュラムがあるほど、プロジェクトの形式は普及していた。それに対して、アートまるケットのワークショップでは、一般参加者が作ったものを造作に取り入れたりもするが、その仕組み自体は、アーティストと専門家、担当者によるものである。また、アートプロジェクトによくある、その地の歴史を掘り起こすといったも

のでもない。あくまで美術館の敷地内の企画であって、外の社会に造作物を設置しようとするものでもなければ、外の社会にいる一般の人たちによって設営されるものでもない。

その点で、アートまるケットは未だ開始されていないアートプロジェクトとも言える。しかし、このように言い換えることもできる。それは、アートプロジェクトを通して参加者がその開催場所に思いを巡らせるものであるように、アートまるケットもまた美術館の庭園というものの社会的な役割をもう一度見直させるものである、と。

岐阜県美術館は、敷地の東側およそ3分の2を建物が占め、それを取り囲むように点々と屋外彫刻が設置されている。西側の残り3分の1程度の庭には、およそ南北に人工の川が流れていて、遊歩道は庭園を取り囲むように設計されている。多くの彫刻は、散策する途中で対面できるように配置され、ところによっては木々のない場所もある。言い換えると、庭園の中央と木々の茂るところは、景観を乱さないように屋外彫刻の空白地帯となっている。つまり、美術館の庭園は、展示室を表現するホワイトキューブのように、ニュートラルな空間となっていることがわかる。遊歩道を通して、作品がよく見えるように庭園の空間の中に鑑賞者が誘導されることになる。しかし、多くの来館者にとっての動線から見る敷地の配置を考えると、庭園と建物の間を通り、北門と南門をつなぐコンクリート舗装の道から直接建物に入ることが前提となる。それに対して、アートまるケットの開催によっ

て、多くの来場者が庭園に踏み入った。彫刻の空白地帯を通して。

こうした敷地内の配置を前提として開催されたアートまるケットを、運営の側から位置づけしなおしてみよう。熊倉純子監修の『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』ⁱⁱで、代表的な、日本人アーティストによるアートプロジェクトを、アーティストの署名性から、3つに分類している。ひとつは、自らの活動によって地域住民参加を促し、そこで制作される作品に署名するものであり、また別のものとしては、プロデューサーの名義のみで、全体の活動を自身の作品とみなさないことから、作家としては署名しないというものである。それらと異なり日比野の位置づけは、あくまでも、アーティスト以外の人が活動の担い手となるように、アーティストが活動のきっかけや仕組みを作る「システム型」であり、日比野はそこに署名している、とこの著書では分類されている。この分類を踏まえると、日比野がディレクターをつとめたアートまるケットでは、そのシステムに参加する人たちに、実施される場に新たな思いを巡らせるアートプロジェクトのように、岐阜県美術館庭園への新たな視座が提供されたことになる。今まで素通りされてきたところに、作品鑑賞以外の視線が加わることで、公的空間が公然と存在していたことに気づかされる。決して、アーティストの与える決められた見かたを提供するのでも、プロデューサーとして別の作家に見かたを委ねるのでもない。アートまるケットにおいては、日比野という館長でもあるアーティストが、そ

の場を開放し、来場者は、鑑賞者としてだけでなく活動の担い手として庭園に介入した。

アートまるケット会期中、それまで、屋外における常設展示室兼収蔵庫の役割の強かった美術館の庭園が、狭義の美術展を越えた企画展およびワークショップ開催場所やイベントステージになった。庭園彫刻と異なり、造作物の設置が一時的であれば、美術館庭園には、新たな可能性が生れてくる。アートまるケットの会期中、庭園は、常設展示場でなく、所蔵品を含めた企画展示場となっていた。そこは、常設の作品を鑑賞するために、作品以外に余計な意味をもたせないよう周囲の空白を維持してきた場であるが、その空白が、新たな創造と、人と人が出会える場となり、プラットフォームとしての機能を持つようになった。また、造作物やアカデミーによる様々なイベントにより、普段あまり美術館に足を運んだことのない人々も来場しやすくなった。そうして、美術館内外から、関係者、来場者たちが訪れ、様々な意味が混ざり合うことのできる場になっていった。

(岐阜県美術館学芸員 西山 恒彦)

i McCarthy, Jane & Laurily Keir Epstein, *A Guide to the Sculpture Parks and Gardens of America*, Michael Kesend, 1996, p.1.

ii 熊倉純子監修『アートプロジェクト芸術と共創する社会』水曜社、2014年、p.23。



資料

2015年 会期日数 85日 来場者数 58,292人

メディア掲載

掲載月日	新聞・雑誌名	掲載ページ	内 容
8月21日	読売新聞.....	朝刊29	芸術作品に植え替え
8月21日	岐阜新聞.....	朝刊26	日比野館長が制作開始 花を集め作品に咲き誇れ"色の棲家"
9月3日	中日新聞.....	朝刊18	巨大造形 学生ら分担
9月3日	岐阜新聞.....	朝刊18	多彩なワクワク感じて
9月6日	中日新聞.....	朝刊24	26種が開花 100日間新鮮
9月6日	岐阜新聞.....	朝刊1	花咲く回廊、新たな息吹
9月6日	読売新聞.....	朝刊23	美術館に「色の棲家」 ワークショップに親子連れ
9月6日	朝日新聞.....	朝刊35	和紙を染めて花のアートにせよ
秋	美術屋・百兵衛.....	1、42	特集 岐阜文化考
12月13日	岐阜新聞.....	朝刊21	アートまるケット閉幕 "色の棲家"種いっぱい 日比野館長 親子と一緒に収穫
12月16日	朝日新聞.....	朝刊28	アートまるケット「花は色の棲家」 種収穫楽しみ 閉幕"

2016年 会期日数 62日 来場者数 39,027人

メディア掲載

掲載月日	新聞・雑誌名	掲載ページ	内 容
5月16日	中日新聞.....	朝刊20	アートまるケット 7月の企画展へ子どもら種まき
5月16日	朝日新聞.....	朝刊27	アートまるケット オブジェ飾る花 種まき育てよう
5月16日	岐阜新聞.....	朝刊17	アートまるケット 水辺に育て「芸術の花」 7月の本番へ800鉢準備
7月17日	岐阜新聞.....	朝刊26	アートまるケット芸術の花、水辺に集う
9月24日	岐阜新聞.....	朝刊14	「ながれミながら」あす最終日「収穫祭」
9月26日	岐阜新聞.....	朝刊26	「アートまるケット」にぎやかに閉幕

CCN放映

8月4日(8月6日、7日再放送)	森林文化アカデミー「ぎふの木でつくって浮かべてあそぼう」
9月3日(10月1日、2日再放送)	収穫祭

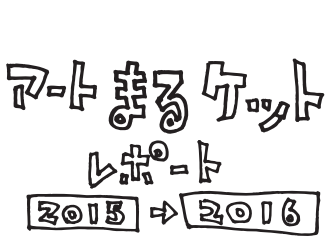
2016「ながれミながら」



関係者(五十音順)

- あみこ(コンテンポラリーダンス) ■池田アフリカン化計画実行委員会
- 池田町障害福祉サービス事業所 ふれ愛の家(踊り) ■稲川 敬二 ■大久保 務 (映画「夜空」)
- 「音と語りのお話の世界」火風水(語り) ■加藤 洋平 (映画「月は無慈悲な夜の女王」)
- 加納西認定こども園(ダンス) ■株式会社日本イベント企画 ■株式会社ムラヤマ ■株式会社CONST
- 岐阜県教育委員会 ■岐阜県木育推進協議会 ■岐阜県立岐阜農林高等学校 3年生3人、沖本 暢敬教諭
- 岐阜県立岐南工業高等学校 書道部(書道パフォーマンス)
- 岐阜県立国際園芸アカデミー 今井田 一夫准教授、百海 琢司准教授、吉田 久美子准教授
- 岐阜県立国際たくみアカデミー 建築 大野 生二科長
- 岐阜県立森林文化アカデミー 廣田 桂子准教授、松井 勲尚教授
- 岐阜新聞・ぎふチャン ■岐阜の森学園＋Vio.濱島 秀行＋聖徳学園和太鼓(和太鼓パーカッションフェス)
- コネクト株式会社 ■柴田 晃宏 (映画「Nobutaka Shomura」,「月見る夢」)
- 情報科学芸術大学院大学(IAMAS) 大石 桂誉(花木のささやき)、大島 拓郎(花木のささやき)、
金山 智子教授・産業文化研究センター長、ギン・イーギョン(川のしおり)、後藤 良太(ホウキ作り)、
篠田 幸雄(ホテルの棲む気配のキュービクル)、ジョ・ジェヨン(花木のささやき集め)、竹村 望(はしハン、かけカケ)、
八嶋 有司産業文化研究センター研究員
- スタジオDHダンシングハート(ダンス) ■寺島 真希 (映画「Dancado 踊り続ける」) ■冨塚 祐美(ローズカフェ)
- 直井 康晃(映画「逃げる男」) ■伏屋 美希(ライブ・ペインティング) ■木歌(ヴォイス・パフォーマンス)
- 森本 早紀 ■ラフター(笑い)ヨガ(健康体操) ■AFRICULTURE
- AfroBegueBand Acoustic オマール・ゲンデファル(ボーカル、ジャンベ)津田 悠佑(ギター) SuzKen(ベース)
- MJ TRIBE GIFU(ダンス) ■NGOガイアの社 ■NHK岐阜放送局
- NOSS公認インストラクター 太田 日登美(日本舞踊)

- 岐阜県美術館 岡田 潔、芝 涼香、西山 恒彦、林 隆一、日比野 克彦



岐阜県美術館
アートまるケットレポート 2015→2016

執筆・編集：岐阜県美術館 日比野 克彦、西山 恒彦、
林 隆一、芝 涼香

表紙・ロゴ：日比野 克彦
デザイン

レイアウト：株式会社イシュー
デザイン

印刷・製本：株式会社 弘文社

発 行：岐阜県美術館©2017

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

TEL 058-271-1313 FAX 058-271-1315

